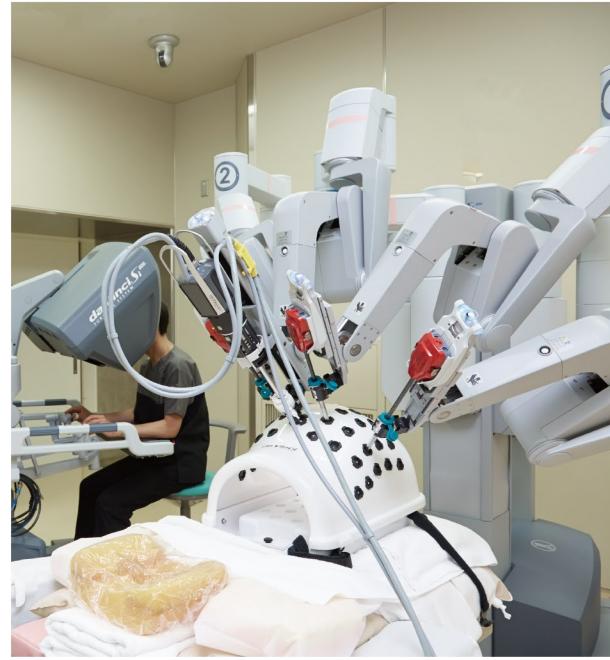




より精密ながん手術を実現する手術支援ロボット「ダヴィンチ」

四国がんセンター



練習用キットを用いたダヴィンチの実演。ロボット本体と操作台、助手用のモニターなどで構成されている

人の手よりも細かい手技を実現

ダヴィンチ(da Vinci)は、アメリカで開発された内視鏡手術支援ロボットです。医師は内視鏡により映し出された体内の立体画像を見ながら、ロボットを操作し手術を行います。四国がんセンター(愛媛県松山市)では2014年にダヴィンチを導入し、前立腺全摘術(前立腺を全部摘出する手術)などを行っています。

四国がんセンターの橋根勝義統括診療部長は



※腹部に数か所の穴を開け、内視鏡や専用の器具を入れて行う手術

「患者さんのライフスタイルは多岐にわたるので、希望を聞いて総合的に治療法をアドバイスしています」と橋根統括診療部長



充実した専門のスタッフが高精度放射線治療を提供

九州がんセンター

がんを捉える精密さ

「設備と専門のスタッフがこれだけ充実した病院は、珍しいでしょう」。そう話すのは、九州がんセンターの國武直信放射線治療科医長です。九州がんセンターは高精度放射線治療センターを備えており、同センターの患者さんの約3割が高精度放射線治療を受けています。

高精度放射線治療とは、悪性腫瘍(がん)の大きさや形状に合わせて強い放射線を当て、腫瘍周辺の正常な細胞への悪影響を極力避けることができる治療です。肺がんの場合は呼吸で肺が動くため腫瘍に放射線を照射するのはハーダルが高いのですが、高精度放射線治療では肺の動きに合わせて腫瘍が一定の位置に来た時にだけ放射線を当てる(呼吸同期)ことができます。また、脳幹部(頭部の深いところ)に悪性腫瘍がある場合、脳に通じる細い血管や神経が集中しているため手術は非常に困難で、高精度放射線治療を選択することができます。その精度は肺であれば4mm以下、頭部で1mm以下という緻密さ。これが高精度といわれる所以です。

安全・安心を提供する専門集団

九州がんセンターには、こうした治療ができる高精度放射線治療センターがありますが、その特徴は装置だけではありません。放射線治療の専門医はもちろん、がん放射線療法の認定看護師(日本看護協会が認定する21種類のひとつ)、診療放射線技師、治療全体を管理する医学物理士(P06参照)や放射線治療品質管理士など、高度な知識と技術をもつスタッフが充実している



患者さんの不安が和らぐよう声をかける國武医長

ことも、見逃せない特徴です。それぞれの分野で放射線治療の高い専門知識をもつエキスパートがチームを組み役割を分担することで、治療効果はもちろん、患者さんの安全・安心につながる治療を行っています。



「人を育てる体制も充実しています」と話す國武医長の健康管理法は自転車通勤。片道13.5kmもあり通算で24,000km(地球の半周以上)を超えた